



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

同じ釜の飯

旭町小学校長 道山 正史

校庭東側にある藤の花が美しい薄い紫色の花をたくさんつけました。長年旭町小学校に勤務している人に言わせると「今年は多い方です。」ということですが、それ以外にも美しい色の花々が学校で咲く季節になりました。花は1本1本それぞれが美しい色をしています。そしてそれぞれによい香りを漂わせます。それが集まったとき、さらに輝きを増すのです。

人にも全く同じ事が言えると思います。「No.1にならなくてもいい、もともと特別な Only One」ですが、「色とりどりの花束と、うれしそうな横顔」がさらに大事なのです。一人一人が大切なのは当たり前ですが、一人一人が集まって集団になったとき、人のために一人では成し得ないこともできることがある、このような経験をできるだけ多く学ばせる場所が学校なのだと思います。

先日、岩井移動教室の実地踏査に2泊3日で行ってきました。先生方は、いかに楽しく、有意義に、安全にといろいろと考えながら、悩みながら参加しています。この努力が各校で報われてほしいと思いながら、先生方の引率役をしていました。

「移動教室」ですから、学習の一環として行うわけで、東京では体験できない、経験できないことを中心に、宿泊を通して学んでいくのです。しかしそれと同時に集団宿泊訓練という側面は、移動教室の実施上、強調されるべき事です。古いですが「同じ釜の飯を食った仲間」としての意識が少しでも芽生えてくれれば...とか、小学校の思い出の一つになることを...とか、教師の思いは尽きないのです。一人一人に配慮しながらも、一人一人が集団のために最善と思う行動がとれる、集団だからこそ楽しいと思える、ということを教えていくよい機会としてとらえることができます。

6年生が20日(火)から4日間、軽井沢移動教室に行きます。5年生での経験を生かしながら、集団で生活することを楽しみ、マナーを学び、人のために、みんなのために役に立つということはどのようなことなのかを感じ取ってほしいと思っています。

「一人一人を大切にする」ということは自己主張をすべて受け入れるということではありません。また「集団の和を重んじる」ということは決して一人一人の考えをすべて二の次にするという事ではないのです。その難しいバランスを移動教室に限らず、学校という集団生活の場の中で感じ取らせ、上手にコミュニケーションができるようにさせることも学校教育の目的の一つなのです。